

第2回教育環境整備審議会 概要

令和8年7月24日(金)18:30

赤磐市中央公民館

1 会長あいさつ

- ・本日から具体的な議論を始めることになる。
- ・みなさんの地域の思い、保護者の方の思いがあると思う。そのような思いを出していただきたい。
- ・10年先、20年先の赤磐市の教育が発展・持続していくかという観点から議論をお願いしたい。

2 教育長あいさつ

- ・前回は審議会の役割、学校・幼稚園の現状、子ども数の推移について説明し、課題を共有させていただいた。
- ・本日の審議会では、市内の子どもたち、就学前の保護者、小中学校の保護者、一般市民を対象に実施した学校の規模等に関するアンケート結果をご覧いただいたと思う。今回のアンケートは、多くの市民のみなさまが、これからの赤磐市の学校や幼稚園についてどのような考えを持たれているかを把握するために実施した。子どもたち自身の思い、保護者の皆さま、地域の皆さまの率直なご意見は今後の審議を進めていく上で、大変貴重なものであると考えている。
- ・幼稚園の子どもたちも今後、小学校、中学校に上がることになる。忌憚のないご意見を賜りたい。
- ・第3回審議会では、本日のご意見を参考にして、事務局としての案もまとめていかなければいけないと考えている。
- ・本日は、1学年あたりの学級数等についてもご意見を頂戴したいと思う。今回のアンケートだけで方向を決めるものではない。しかしながら、市民の皆様の貴重なご意見ということで、地域ごとに違う。地域ごとのご意見も参考にしていかなければならない。
- ・将来も持続可能な幼稚園、小学校、中学校を踏まえて、総合的に議論をいただきたい。

3 協 議

<説明>

(文部科学省資料等)

- ・「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」
- ・学校の規模によるメリット、デメリット(例)

- ・「赤磐市立幼稚園・小学校・中学校教育環境整備審議会」答申（平成23年3月）
- ・令和8年度 赤磐市立幼稚園、学校の予算

<適正規模・適正配置に関するアンケート結果>

- ・幼稚園、学校の規模や子どもの数をどう思うか。
- ・1学年あたりの学級数はどの程度が望ましいか。また、その理由。
- ・1学級あたりの子どもの数はどの程度が望ましいか。また、その理由。
- ・通わせたい学校、望ましい学校。
- ・幼稚園、小中学校の適正規模・適正配置についてどう考えるか。
- ・生徒アンケート結果
- ・教員アンケート結果

<協議（学校の適正規模について）> ●会長 ○委員 □事務局

●会長

本日は、赤磐市における学校の適正規模についての協議をお願いしたい。小学校、中学校の1学年の学級数について。アンケート結果等を見て、なぜこの数がよいのか、どういう教育を子どもたちに経験させたいのか等の理由をあげて発言していただきたい。

○委員

地域性があるという話を聞いて安心した。地域を大切にするのか、子どもを大切にするのか。やはりここで議論するのは子どものためだと思う。しかし、地域を忘れてはいけないと思う。資料1にある「複式学級は教育上支障をきたす」とあるが、具体的な内容を聞かせてもらいたい。

○委員

複式学級の学校に勤めたことがある。例えば、3・4年生は違う学年の子どもが同じクラスにいる。しかし、違う学年だと学習する内容が違う。教育は積み上げていくもの。しかし、それが難しいので、クラスを分けて授業をする必要がある。その場合、少ない人数なので、考え方が広がらない、相談しても新しい考えが見つからないこともある。逆に異学年が交流できるメリットもある。

○委員

何年先まで見て考えればよいのか。10年後にはもっと少なくなる可能性がある。どこに焦点をあてて考えればよいのか。数年先なのか、さらにその先なのか。

□事務局

先を見越さないと責任をもてない。わかっている範囲では令和14年まで。令和14年は確実に考えていただきたい。それ以降は推測だが、それ以降も考えていただきたい。

○委員

もし統合する場合、そのために何年かかるのか。いざ統合しようとしたとして、その時には複式学級になっていたということも考えられるのではないか。

●会長

答申の中に、複式学級が見えたら早々に検討を始めるという条件をつけて表現することも可能。複式学級ということが見えたら、準備の時間も見越して検討を始めるのもできるのではないか。

○委員

出生数がだいたい毎年の生徒数になっているということではいいか。グラフを見ると子どもの数が急激に減っている。

□事務局

実績として生まれている割合を推移の中に落とし込んだデータとなっている。市外から入っている人数は含めていない。赤磐市に人が入らなければこのグラフのような推移になる可能性が高い。

○委員

少子高齢化が進んでいる。高校、大学に行くと複式学級はない。複式学級だと社会に出たら心が折れてしまうかもしれない。社会に出たらグローバルスタンダードで戦わなければいけない時代。そこで耐えられる人材を育てることが、赤磐市だけではなくて岡山県、日本の課題だと思う。複式学級だと耐えられないメンタルもあるのかなと思う。

□事務局

文部科学省、県の指針を大切にしたい。一人一人の子どもたちを大切に、多様性を尊重するという考え方で赤磐の教育を展開している。その上で、どういう方法がよいのかということは、複式学級が大きな課題がある、大規模の学校は課題がある、ではなく、将来的な数の推移を見据えながら、それぞれの地域において何が望ましいのかを総論と各論の部分で検討していかなければいけない。みなさんからのご意見を賜りたい。

○委員

複式学級の教員は、手厚く関われる。子どもの気持ちが手に取るようにわかる。手を出さなくてもよいところまで手を出してしまうこともある。どちらがよいというのは、わからない。

○委員

令和14年以降の人数は誰もわからない。ただ、各地域の特色がある。それはそれで、よいのではないか。高校を途中でやめる子どももいる。つまりくこともある。でも、今の時代はどうにでもなる、通信制の学校もある。次の選択肢もある。大規模校は人が多いから先生の目が行き届かないというわけではない。令和14年を考えて対応を考えたらよいのではないか。

○委員

複式学級の教室に入ると違和感がある。お兄さんやお姉さんがいるので。違和感があるけど楽しいという感じ。できれば、複式学級ではない方がよいのではないか。3年生なら3年生、5年生なら5年生の授業をしてやりたい。しかし、子どもの数が少ない。学校の経費のこともある。費用対効果のことも考えなければならない。教員も5～6人はいる。学校の施設の管理費用のこともある。学校評議員もあるが、この方々にも話をする必要があるのではないか。

□事務局

学校評議員会は地域の方から意見を聞いて学校経営に生かすもの。学校運営協議会は委員を任命して意見を合わせて一緒に学校経営を進めていくもの。

□事務局

市が委嘱をする学校運営協議会は地域の方と一緒に学校の諸課題を考えていく。学校運営協議会の委員は権限もある。一緒に学校経営を考えていこうというもの。

○委員

通学路の関係、子どもたちが何を考えているのかなどのお話をした。先生方、我々の意見を出して、学校をよりよくしていこうというもの。

●会長

委員の方が学校運営協議会で出た意見を持ち寄っていただいてもよい。この地域の子どもたちにどんな力を付けさせたいか、そのためにどういう学校や地域にしていきたいか、どういう教育活動が大事になってくるのか。学校経営の観点、先生が働く環境、先生の数が少ない、校務文章の分担、情報共有の難しさなども教育の質に影響を及ぼしてくる。こういうことも一つの観点になってくる。規模を考える際に、持続可能にしようと思ったら、それを支える学校や教員も働き方も適正規模の観点の一つ。当然、教育の面、費用の面も一つの観点になり得る。1学年の学級数に近づけて考えていただきたい。

○委員

アンケートの結果からすると、2～3学級と回答の方が一番多い。複式学級の学校でも、複式学級よりも1学級の意見の方が多い。複式学級を求めているわけではない。選択肢を増やすという考え方が大切。少人数を希望する家庭は、そちらに行ける環境があればいい。

●会長

アンケートでは、2～3学級が多かった。けれど、選択肢があるとよいということだった。なぜ、2～3学級が多かったのでしょうか。

○委員

アンケートの結果から、言い方をかえると、クラスを変わりたいということ。子ども目線からも感じる。もし、可能なら2クラス以上あればよい。いじめや人間関係のもつれが多いので、リセットしやすい。

○委員

私たちの地域でも保護者としても、地域としても出ている意見としては、選択できるという意見。みんなが選べたらいいという意見がある。生徒アンケートは881人と出ているが、少なすぎると思う。だれにとった数なのか。

□事務局

中学生に取ったアンケートで、74%の生徒が回答している。

○委員

教員アンケートの概要の中で、小規模校のメリット、デメリットとあるが、大規模校の内容はなぜないのか。資料3に平成 23 年に教育環境整備審議会の答申があるが、その後この答申に沿った学校が配置されたことで合っているか。

□事務局

今回の教員アンケートは小規模校のよさ、デメリット・指導の難しさのみを聞いた。その理由は、国の方針として12学級以上18学級以下という指針のもと、今回の手引きまで作成されている。この手引きは小規模校に対する方針内容になっている。それを受けてのアンケートを実施した。

□事務局

平成 23 年の答申を受けて、赤磐市小中学校規模適正化基本方針及び学校統合実施計画を作成した。当時は、軽部小学校と笹岡小学校の統合案、城南小学校と仁美小学校の統合案があった。いろいろなご意見があって、今回石相小学校も含めて赤坂小学校が統合することができた。吉井地域は実現していない状況。

○委員

赤磐市がどういう未来を見据えているのかを知りたい。明確にしているのであれば、教えてほしい。

●会長

前回、そこがないと議論ができないということで、教育振興基本計画を配っていただいた。

□事務局

前回の資料 P4～6。この内容を踏まえてアンケートの選択肢を作成した。

●会長

今回のアンケートでは、1学年の学級数は2～3学級ということが強く出ている。地域性も大事にしながら、選択肢を備える。子ども、保護者が選べるという環境を整えることも大事にしていかなければならない。このことを、今回の共通認識とするのでよいか。

今回の結果を受けて、事務局には再編基本計画の方向性案をいくつかご提案していただきたい。その案をもとに、議論していくということによろしいか。

4 副会長あいさつ

- ・本日の協議は、1学年の学級数ということで、2～3学級ということになった。
- ・会の中で、地域を大切にする、子どもも大切にするという発言が印象的だった。
- ・それぞれの地域の子どもたち一人一人の顔を思い浮かべながら話をしてくださった。
- ・今後も、子ども、地域を大切に話ができるとうい。